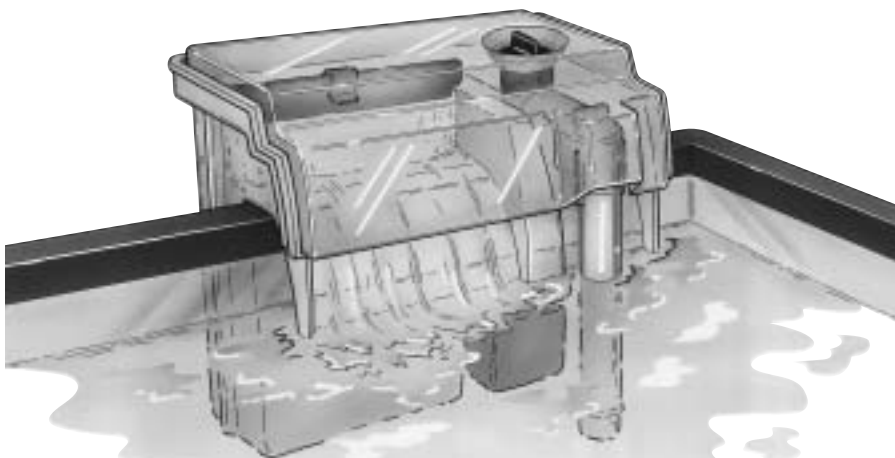


テトラ ワンタッチフィルター

取扱説明書

OT-45用
OT-60用

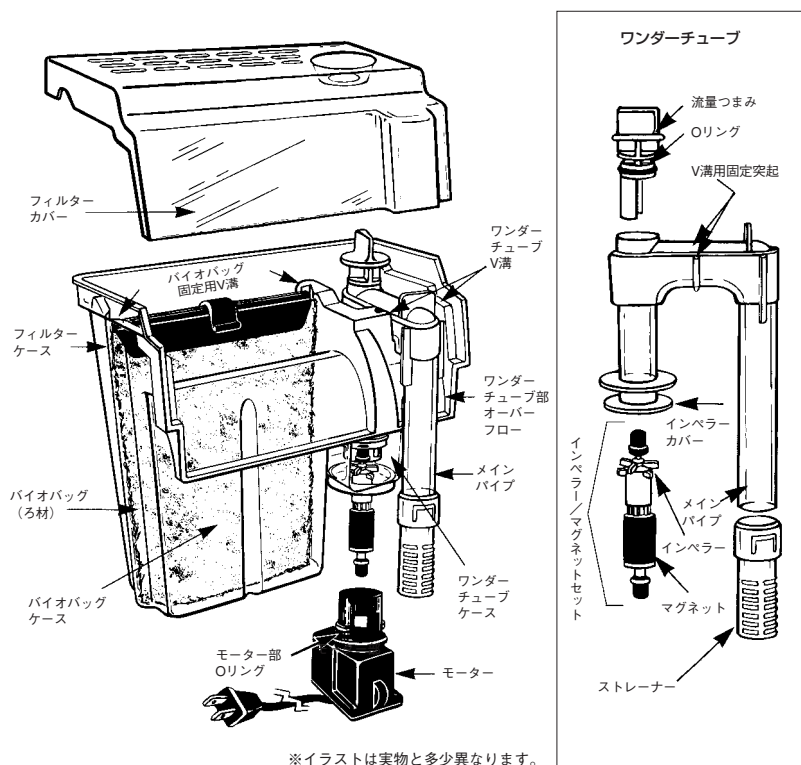


●このたびは、テトラ ワンタッチフィルターをお買い上げいただき、誠に有難うございます。
●正しく安全にお使いいただくために、使用前に必ずこの取扱説明書をお読みいただき、十分に理解してからご使用ください。お読みになった後は、大切に保管していただき、必要な時お読みください。

1

Japanese Version 100V 50/60Hz

各部の名称



※イラストは実物と多少異なります。

4

安全にお使いいただくために

お使いいただく前に、取扱説明書をよくお読みご理解いただいたからお使い下さい。誤った使い方は、人、動物、財物の重大な事故につながる危険があります。お読みになった後は大切に保管し、必要な時には再読して下さい。

警告



感電事故を避けるためにお守り下さい。

- 始動前に必ず水漏れチェックをして下さい。(設置方法1に従って下さい。)
- 水の中に手を入れる時は、必ずプラグを抜いて下さい。
- 水漏れや事故の際は、直ちにコンセントからプラグを抜いて下さい。
- セット、点検、掃除、移動の時はプラグを抜いて下さい。
- 濡れた手で、プラグの抜き差しをしないで下さい。
- 強い衝撃を加えたり、落としたりしてはいけません。
- 幼児、子供のいたずらや、接触転倒などに十分ご注意下さい。
- 子供が使う時は、大人が立ち会うようにして下さい。
- 改造してから使わないで下さい。
- 本器を水中に落とした場合、電源を切ってから取り出して下さい。
- 万一何らかの理由で、フィルターに水が入っていない状態で一定時間以上作動させた場合には、必ずモーターを取り外し、明るい光の下でプラスチックの表面がゆがんだり、溶けたりしていないか調べて下さい。もしゆがんだり溶けたり、あるいは作動具合が良くなった場合には、使用しないで下さい。

注意

火災・漏電事故を避けるためにお守り下さい。

●電源はAC100ボルトの専用コンセントをお使い下さい。テーブルタップ(延長コード)の使用は避けて下さい。

●コンセントのプラグやコードに埃(ほこり)が被らないようにして下さい。

●プラグを差し込む時は、隙間が出来ないように、しっかりと押し込んで下さい。

●水滴や飛沫がプラグやコンセントを濡らさないようご注意下さい。

●痛んだコードは、湿気や水滴により火災をおこす恐れがありますので使用しないで下さい。

●プラグの刃の部分、刃と刃の間の汚れは定期的に取り除いて下さい。

●電源コードを加工したり、ご使用の際にたばねたり、柱に打ちつけたりしないで下さい。

●水がコードを伝わってコンセントを濡らすと火災、感電の原因となります。水が侵入しないように、コンセントより低い位置にコードのたわみをつけるようにして下さい。(左図イラスト参照)

たわみをつけることでコンセントへの水の侵入を防げます。

2

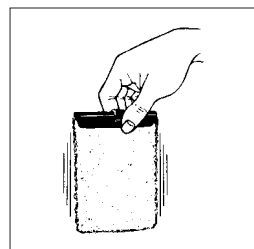
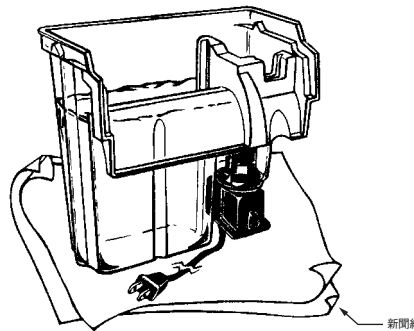
設置方法

4ページの「各部の名称」を参考に組み立てます。
フィルターカバーを開けバイオバッグ、ワンダーチューブを取り出します。

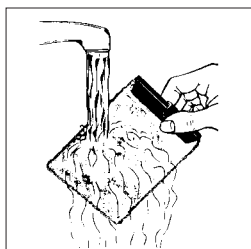
1 輸送等により破損していることがありますので、水漏れがないかを必ず確認します。
各部を外見からチェックした後、フィルターケース内に2/3程、ぬるま湯を入れて新聞紙の上に15分程置き、水が漏れていないかどうかチェックします。水漏れするようでしたら、使用を中止し販売店にお知らせ下さい。

注意

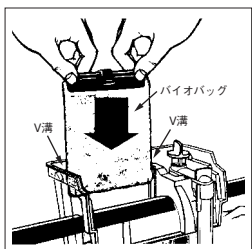
輸送等によりモーターが緩んだり、破損していることなどがありますので、必ず水漏れをご確認のうえご使用下さい。



2 バイオバッグをビニール袋より取り出し、図のように軽くふり、下部に吸着ろ材を集めます。



3 水道水でバイオバッグを軽くすすぎます。



4 両手でしっかりと図のようにフレーム部を持って、バイオバッグ固定用V溝にバイオバッグの両端を入れ、底部に届くまでしっかりとセットします。

5

安全にお使いいただくために

注意

本体による事故や故障を避けるためにお守り下さい。

- 砂利の吸い込みにご注意下さい。モーター停止の原因となります。
- ストレーナーは必ずセットして下さい。セットしないで使用する事故の原因となります。
- 必ず、フィルターケースに水を入れてから電源を入れて下さい。
- 本体を洗浄する時、せっけん、洗剤を使用しないで下さい。
- ストレーナーの網目より小さな魚は、フィルターに吸い込まれることがありますのでご注意下さい。
- 観賞魚水槽用フィルターです。それ以外の目的で使わないで下さい。
- 屋内専用です。屋外では使用しないで下さい。
- 正しい電源電圧周波数で使用して下さい。
- 目づまりや汚れによる流量低下は故障の原因となりますので、モーター部やインペラ部、ワンダーチューブ部は定期的(2か月に1度位)に掃除して下さい。
- 水槽の水位に注意して下さい。モーターを空運転させますと、故障の原因となります。
- 適当な水槽は魚種、魚の数、環境によって違ってきますのでご注意して下さい。海水魚、大型魚など、特にパワーを必要とする場合は大きめのフィルターを使用して下さい。
- 器具を本来の目的以外に使用しないで下さい。推奨されている製品もしくは当社製の付属品以外のものを接続すると、危険な状態になる場合があります。
- 0度以下の条件にさらされる可能性のある場所に器具を設置したり、保管したりしないで下さい。
- 作動前に、水槽にセット器具がきちんと設置されているか、水漏れがないか確認して下さい。
- コードは、つまづいたり、引っ張られたりすることがないように取り付けセットに注意して下さい。

テトラ製品のお取り扱い方法・お手入れ方法・修理その他ご不明な点は、機種名をご確認の上、お買い上げの販売店又は弊社にご相談下さい。

(弊社商品相談窓口) テトラ インフォメーションセンター

- 電話受付時間：月～金曜日 午前10:00～12:00 午後2:00～5:00 (祭日は休業いたします)
- 電話番号：03-3794-9977
- お手紙の受付：(随時) 宛先：〒153-0062 東京都目黒区三田1-6-21 アルト伊藤ビル
テトラ ジャパン株式会社 テトラ インフォメーションセンター

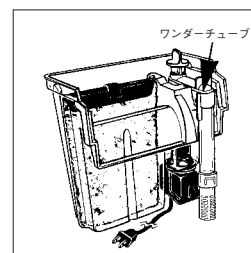
情報がたっぷりのテトラ ホームページをご利用下さい。 www.tetra-jp.com

注意

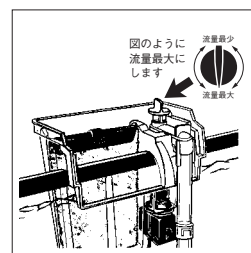
●誤った使用方法、管理不十分による損害、魚、水草などの生体の病気、死亡、枯死については、弊社では責任を負いかねますので、予めご了承下さい。

3

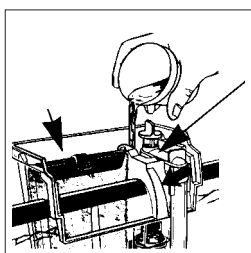
設置方法



5 ストレーナーを接続したワンダーチューブを、矢印部分が溝の中に入るように深くセットします。ストレーナーは水槽の底の砂利などに接触しないようにして下さい。砂を吸い込むと停止し、故障の原因となることがあります。どうしても、砂や異物を吸い込み、停止してしまうときは、流量を最少にしたり、吸い込まれるような砂や水草など原因となるものを入れないようにして下さい。



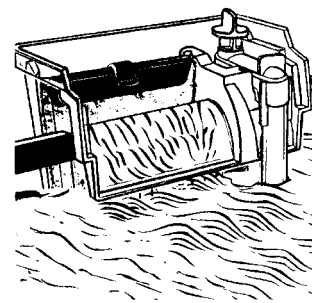
6 フィルターケース部が水槽の外側になるように水槽枠にセットし、流量調節つまみを流量が最大になるように回します。



7 ワンダーチューブケース内に水を十分満たします。(呼び水)

8

水槽の水面位置は、水槽最上部より1～3cm下がった部分が水面になるように水槽の水位を調節して、電源プラグをコンセントに差し込みます。10～20秒後に自動的に運転を開始しますが、もし運転しない場合、ワンダーチューブ部を1～2回上下して下さい。(それでも運転しない場合11ページの「故障異常の見分け方と処置方法」をご参照下さい) フィルターカバーをセットします。



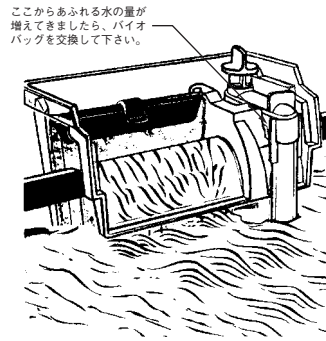
6

バイオバッグの交換方法

ワンダーチューブ部オーバーフローから水が多くあふれてきましたら、バイオバッグを交換して下さい。また、水のにごりが激しくなりましたら、早めにバイオバッグを交換して下さい。通常バイオバッグは最低2~3週間に1回の交換を目安にして下さい。

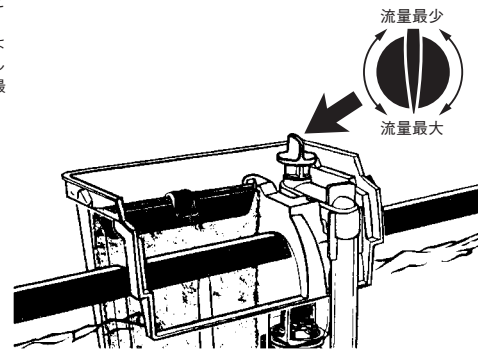
※海水魚や、魚を多く飼育している場合は、2週間に1回の目安で交換することをお勧めします。

お求めの際は、**OT-45/60/W専用バイオバッグ**をお求め下さい。



餌を与える時の流量調節

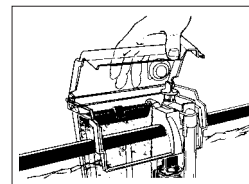
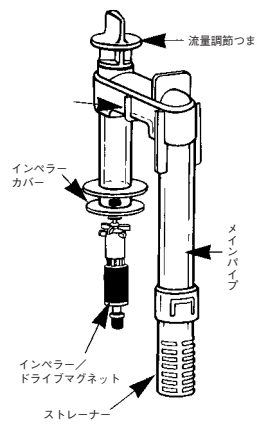
テトラミンやテトラフィンなどのフレークの餌を与える時は、フィルターに吸い込まれないように流量調節つまみを最少にします。餌が食べ尽された後、最大にもどします。



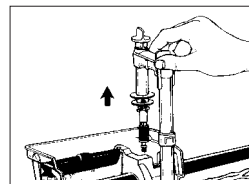
7

ワンダーチューブ部のそうじ

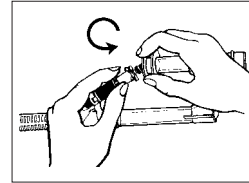
故障防止のため定期的そうじします。



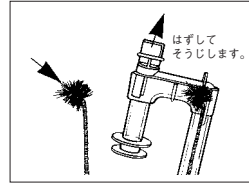
1 電源プラグをコンセントから抜き、フィルターカバーをはずします。



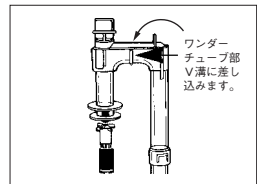
2 ワンダーチューブを持ち上げて本体から取りはずします。



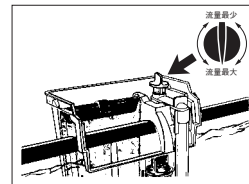
3 インペラー/ドライブマグネットを図のように回して、流水でしっかり洗います。



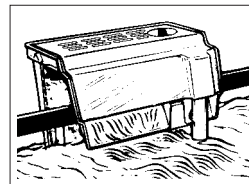
4 流水で汚れを洗い流したり、市販のブラシ等を使ってパイプ部をそうじします。



5 ワンダーチューブ部をフィルターケース部のV溝に差し込みます。



6 流量調節つまみを最大流量に調節します。

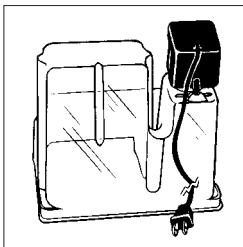


7 電源プラグをコンセントに差し込み、運転します。

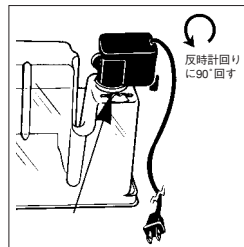
8

モーター部のそうじ

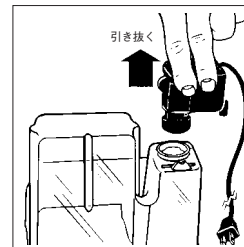
モーター停止など故障防止のため定期的に、そうじをします。



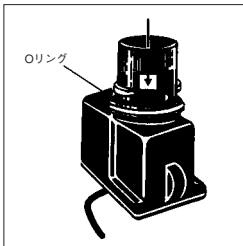
1 電源コードをプラグより抜いて、電源を切ります。フィルターを空にし逆さまにします。



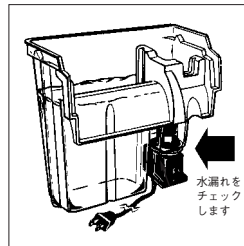
2 図のように、反時計回りに90°回します。



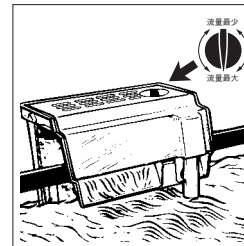
3 軽くモーターを持ち上げて引き抜きます。



3 綿棒や歯ブラシなどで矢印の奥側を念入りに掃除します。異物は完全に除去して下さい。(金属ブラシなどはモーターを傷めるので、使用しないで下さい。)



4 Oリング部を水に濡らして、上記1、2、3の逆の手順でセットします。セット後水が漏れないか必ず確認して下さい。



5 [設置方法]を参考にして水槽にセットします。

10

故障・異常の見分け方と処置方法

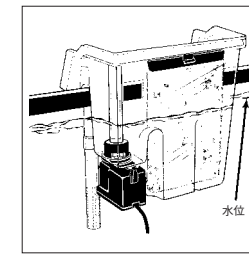
注意 ⚠ 細かい砂などの異物を吸い込むと止まります。下記を参考に処置して下さい。

現象	原因・チェック	処置方法
水が流れない (モーターが動かない)	呼び水はしましたか? 電源は入っていますか?	[設置方法]の"7"を参照して下さい。 コンセントにしっかりプラグを差し込んで下さい。
モーターが止まる	インペラー部やモーター内部にゴミや水アカが付着している。または細かい砂やろ材など異物を巻き込んでいる。 インペラー/マグネットや軸に糸や毛などが巻きついている。 インペラー/マグネットが軸を中心にスムーズに回転しない。 水槽の水位が低くありませんか? 吸水パイプの下でエアレーションをしていますか? ストレーナーにゴミが付着していませんか?	インペラー部やモーター内部のゴミや水アカをそうじして下さい。または細かい砂など異物を吸い込まないように注意して下さい。 糸や毛などを取り除いて下さい。 軸とインペラー/マグネットの間にカルシウム等のミネラル分が付着しているのを取り除く。(食用酢の中に数時間浸してから強い水流中でよく洗う。) [設置方法]の"8"を参照して下さい。 ワンダーチューブ部に空気が入り込むと運転しなくなることがあります。エアが吸い込まれない位置で、エアレーションして下さい。 ストレーナーからゴミを取り除いて下さい。
異常音が発生する	ワンダーチューブ部がしっかりとV溝部分にセットされていない。(異常音が発生する) インペラー部が破損していないかチェックします。 流量つまみがはずれていませんか?	V溝にしっかりと深くセットして電源を入れ直して下さい。(ストレーナー部が、水槽の底に触れないようにセットし、ワンダーチューブが浮かないようにして下さい。) 破損している場合、交換します。 流量つまみをワンダーチューブ部にしっかりと挿入します。
水漏	フィルターケース、ワンダーチューブケース部に亀裂がありませんか? Oリングが正しくセットされていますか?	破損している場合、そのまま使用になると危険です。ご使用にならないで下さい。 [モーター部のそうじ]を参考に再セットして下さい。

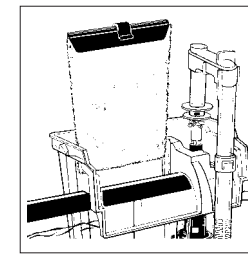
●上記該当しない場合は、お買い上げ店もしくは弊社テトラ インフォメーションセンターまでお問い合わせ下さい。

11

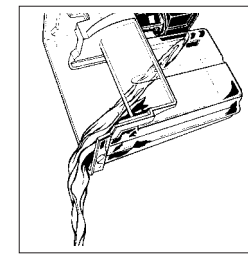
フィルターケースのそうじ



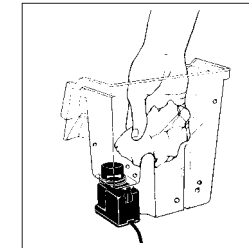
1 電源コードをプラグより抜き、ワンダーチューブ部をはずします。



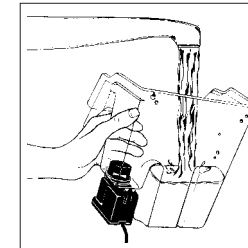
2 バイオバッグをはずします。



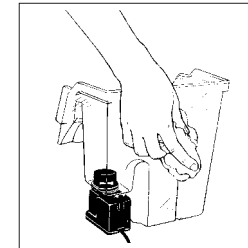
3 水を捨てて空にします。



4 布でフィルターケースの内側の汚れを拭き取ります。



5 フィルターケース内をすすぎます。



6 外側を乾いた布で拭き取り、[設置方法]を参考にセットします。

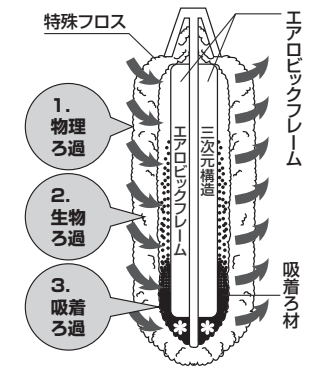
9

※そうじをする時には、洗剤、シンナー、ベンジン、化学そうじ、金属ブラシなどは使用しないで下さい。

交換ろ材

バイオバッグのトリプルろ過

- 1 汚れをカットする 物理ろ過
特殊フロスが魚のフンや残りエサを除去します。
- 2 汚れを分解する 生物ろ過
三次元構造のエアロビクフレームが汚れを分解する「ろ過バクテリア」の繁殖をうながし、有害なアンモニア、亜硝酸を分解します。
- 3 汚れを吸いとる 吸着ろ過
1g当たり900m²の表面積を有する高品質吸着ろ材がにごり、悪臭を吸着します。



バイオバッグは使い捨てです。通常バイオバッグは最低2~3週間に1回の交換を目安にして下さい。※海水魚や、魚を多く飼育している場合は、2週間に1回の目安で交換することをお勧めします。

12